

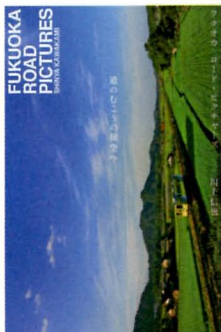
大井実の
BOOKな話

福岡市内で書店『ブックス
キューブリック』をいとむ
大井実さんの、本のある日
常をつれづれに。
文／大井実
撮影／川上信也

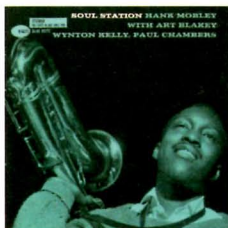
夏になると強くなる旅への想いを、
大好きな写真集とジャズにのせて



『フクオカ・ロード・
ピクチャーズ』
川上信也／花乱社／
1,890円 (税込)



『ソウル・ステーション』
ハンク・モブレイ／EMI
ミュージック・ジャパン／
1,700円 (税込)



夏は旅、ですね。若い頃はいろいろな国を旅しましたが、今は仕事も忙しく、家族で近場を旅行するくらいです。でも、九州は本当に恵まれているとつくづく思います。車で少し行けば海も山も森もあるし、おいしいものにもこと欠かない。かつて住んでいた東京や大阪では考えられない環境です。家族旅行では自然に触れる場所へ行くことが多いですね。年を重ねると自然から得られるエネルギーの大切さを感じます。感じるわけですが、そういう僕の思いに近いものを写真で表現しているのが、クリムでも毎月すてきな写真を撮られている川上信也さんの写真集『フクオカ・ロード・ピクチャーズ』です。ご本人のこともよく知っていますが、この写真集は旅好きな彼の細やかな視点が素晴らしい。風景の切り取り方がきれいで、ページをめくるたびに心が吸い込まれるような気分になります。川上さんの写真はまた、とても

ドラマティックでもあります。それぞれの作品から、この風景の先にはいたい何があるんだろうと想像をかきたてられる。旅先で出会うシーンそのものがまるで一枚一枚の写真になっているようで。ちなみに本のタイトルは、店で彼の写真展をするときに僕が考えた名前。だからなおさら愛着があるんですね。

旅というテーマで選んだアルバムは、ハンク・モブレイの『ソウル・ステーション』。ジャズの初心者の方に向けて一押し作品です。サクソスの音色がやわらかくて聴きやすく、とてもリラックスできることから、僕は「ごきげんジャズ」と呼んでいるんですが(笑)。旅の風景にも耳障りよくなじむし、なによりこのびのびとした演奏が、旅先での開放感そのもの。そのメロディラインは旅のシーンを自由に表現する川上さんの写真集にもすごく通じるものがあります。